



**Sun A. Kaken**

**第113期(2022年3月期)  
第2四半期 決算説明会**

**株式会社 サンエー化研**

**2021年12月2日**

# 目次

## 1. 第113期(2022年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

## 2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

## 3. 第113期(2022年3月期)業績予想と今後の施策

- 通期業績予想
- セグメント別の業績予想(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

## 4. 参考情報

- 新製品紹介
- 新施設紹介
- 適時開示情報
- 基本情報

# 目次

## 1. 第113期(2022年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表  
(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

# 第113期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	2020年3月期末 (第111期末)	2021年3月期末 (第112期末)	2022年3月期 (第113期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	20,075	22,420	22,271	▲148	▲0.7%
現金預金	6,341	7,147	6,822	▲325	▲4.6%
売上債権	10,341	11,628	11,350	▲277	▲2.4%
棚卸資産	3,274	3,605	4,037	431	12.0%
その他	117	39	61	21	55.1%
固定資産	11,552	13,567	13,531	▲36	▲0.3%
有形固定資産	6,520	7,325	7,247	▲77	▲1.1%
無形固定資産	27	54	54	0	0.0%
投資その他の資産	5,004	6,188	6,229	41	0.7%
資産合計	31,627	35,988	35,803	▲185	▲0.5%

# 第113期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

(単位:百万円)

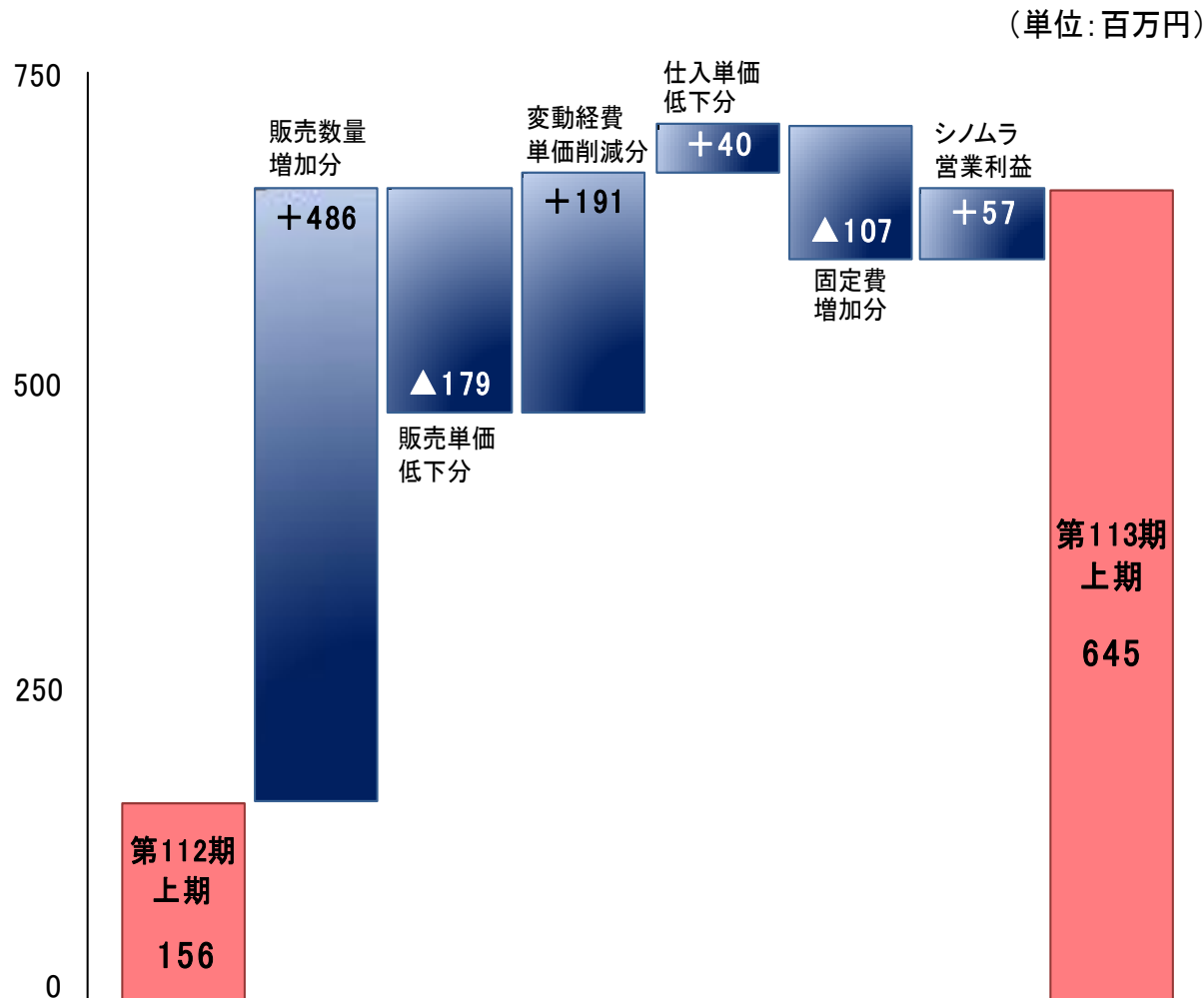
科 目	2020年3月期末 (第111期末)	2021年3月期末 (第112期末)	2022年3月期 (第113期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,303	12,625	12,419	▲206	▲1.6%
仕入債務	6,148	6,888	7,261	373	5.4%
短期借入金	4,120	3,470	3,470	0	0.0%
その他	2,034	2,267	1,687	▲579	▲25.6%
固定負債	1,982	3,503	3,146	▲357	▲10.2%
長期借入金	355	1,393	1,412	18	1.4%
その他	1,627	2,110	1,734	▲376	▲17.8%
負債合計	14,286	16,129	15,565	▲563	▲3.5%
純資産	17,341	19,859	20,237	378	1.9%
負債及び純資産合計	31,627	35,988	35,803	▲185	▲0.5%

# 第113期第2四半期決算概要: 連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	2020年3月期 (第111期) 第2四半期	2021年3月期 (第112期) 第2四半期	2022年3月期 (第113期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	15,297	13,494	14,766 (16,435)	(2,941)	(21.8%)
売上原価	13,592	11,924	12,505 (14,175)	(2,250)	(18.9%)
売上総利益	1,705	1,570	2,260	690	44.0%
販売費及び一般管理費	1,521	1,413	1,615	202	14.3%
営業利益	184	156	645	488	311.0%
営業外収益	136	128	96	▲32	▲25.3%
営業外費用	114	40	15	▲25	▲62.5%
経常利益	206	245	726	480	195.8%
特別利益	—	—	27	27	—
特別損失	—	4	—	▲4	▲100.0%
税金等調整前四半期純利益	206	241	754	512	212.5%
税金費用他	85	69	231	161	368.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	120	172	523	350	203.9%

# 第113期第2四半期決算概要：営業利益の要因分解



販売面においては、全セグメントで販売数量が増加し、+4億86百万円の増益要因となりました。一方、産業資材製品（シノムラ分を除く）の販売数量増加は平均販売単価の低下要因となり、▲1億79百万円増益要因を押下げることとなりました。

費用面においては、合理化によって電力・燃料費等の変動経費の製造原価に占める割合が低下し、+1億91百万円、長鼎電子材料からの製品仕入の減少に伴う平均仕入単価の低下により+40百万円、それぞれ増益要因となりました。一方、人件費及び減価償却費等の固定費が増加し、▲1億7百万円の減益要因となりました。

また、昨年10月に子会社化したシノムラ化学工業の営業利益57百万円がこれに加算され、連結営業利益は+4億88百万円の増益となりました。

# 目次

---

## 2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況  
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

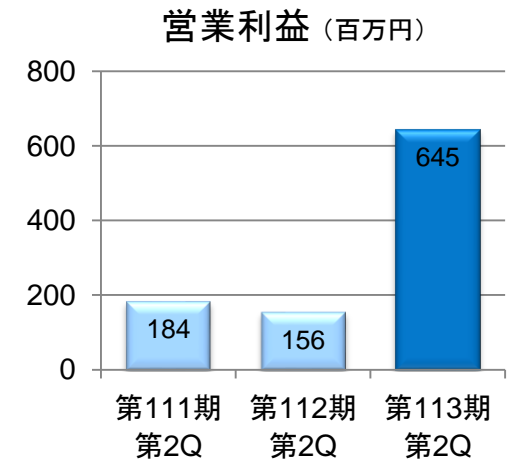
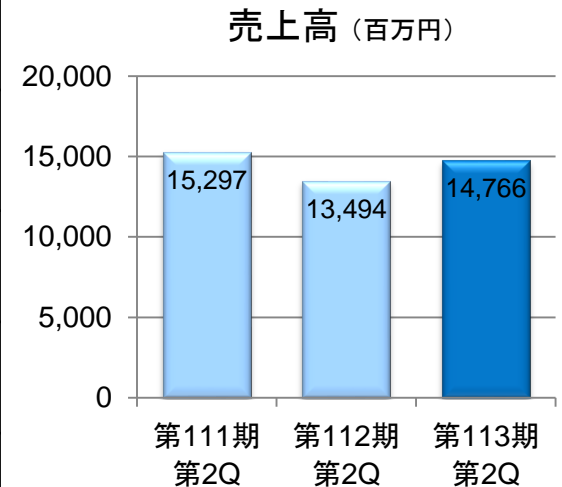


# 各セグメントの概況: セグメント別業績内訳

(単位: 百万円)

科目/ セグメント	2020年3月期 (第111期) 第2四半期	2021年3月期 (第112期) 第2四半期	2022年3月期 (第113期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	15,297	13,494	14,766 (16,435)	(2,941)	(21.8%)
軽包装材料	6,144	5,894	5,776 (6,395)	(501)	(8.5%)
産業資材	3,573	3,239	4,732 (5,767)	(2,528)	(78.1%)
機能性材料	5,299	4,087	4,128 (4,136)	(48)	(1.2)%
その他	280	273	129 (136)	(▲137)	(▲50.2%)
営業利益	184	156	645	488	311.0%
軽包装材料	189	184	273	89	48.2%
産業資材	▲282	▲237	15	253	—
機能性材料	283	202	356	154	76.6%
その他	▲7	7	▲1	▲8	▲118.1%

※括弧内は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値



# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

## 軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



### 主要顧客

- 食品製造業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

### 生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

## 食品用包材

第2Q売上高  
2,845百万円



「レンジD○!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

### 市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい
- 環境対応包材のニーズ高まる

### 収益性・成長性

- コロナ禍で「レンジD○!」の需要拡大
- 業務用包材の需要回復に期待

## 医薬品・医療用包材

第2Q売上高  
949百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。「テクニフィルム」の拡販に期待。

### 市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

### 収益性・成長性

- 高防湿医薬品包材の需要拡大
- 高齢化の進行で医療分野は成長期待

## 日用品等の包材

第2Q売上高  
1,981百万円



多様な製品展開で受注変動リスクに対応。独自製品の開発・拡販に注力。

### 市場環境

- 環境対応包材の引き合い増加
- 高機能・利便性のニーズ高い
- 一般包材は競争厳しい

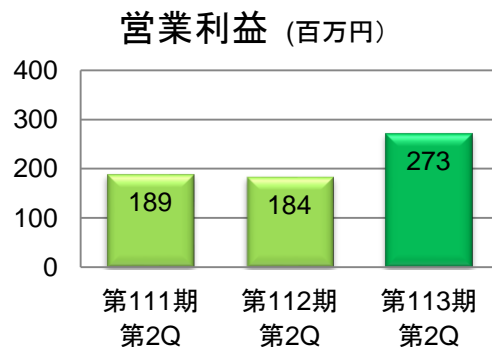
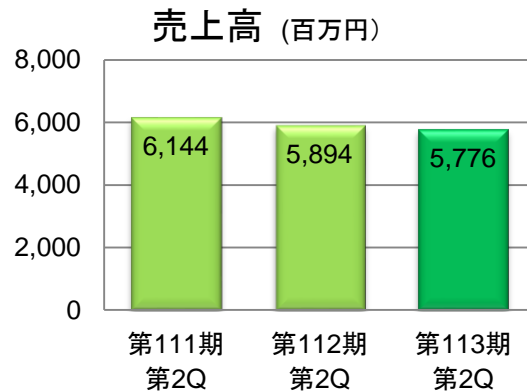
### 収益性・成長性

- 詰替え用パウチは多様化で競争厳しく
- 耐内容物包材は潜在需要見込める
- エアー関連製品は用途開発が課題

# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

## 軽包装材料

- 売上高：5,776 百万円 ※売上高下段は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値  
(6,395 百万円 前年同期比 8.5% 増)
- 営業利益：273 百万円（前年同期比 48.2% 増）



- 食品用包材は、コロナ禍長期化により電子レンジ対応包材「レンジD○！」が好調。清涼飲料用パウチも受注回復。
- 医薬品・医療用包材は、高防湿PTP包装用フィルム「テクニフィルム」をはじめ全般的に前年同期の落ち込みから回復。
- 日用品等の包材は、エア緩衝材と化粧品関連の不調が続くも、ハンドソープ、消毒液等の詰替え用パウチが例年以上の受注水準を維持。その他の包材の受注も堅調。
- 夏以降、原材料費が増加に転じるも、収益性の比較的高い主要製品の多くが増収となり、さらに生産合理化によって経費削減が進展したことにより、増益。

# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

## 産業資材セグメント

### 粘着テープ基材及び各種剥離紙の製造・販売



### 主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

### 生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



東邦樹脂工業



シノムラ化学工業





# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

## 紙・布へのラミネート製品

第2Q売上高 1,843百万円



主に粘着テープ用基材をテープメーカーに販売。

### 市場規模（推定）

- 重包装袋：約900百万m<sup>2</sup>/年
- 紙テープ用：約420百万m<sup>2</sup>/年
- 布テープ用：約200百万m<sup>2</sup>/年

### 市場環境

- 紙テープの国内生産量は横ばい
- 海外品OPPテープとも一部競合

### 収益性・成長性

- 一般品は生産数量確保が課題
- 布テープは防災用途で需要増が期待
- シノムラ化学工業子会社化により布テープ用基材のシェア拡大、競争優位に

## 剥離紙

第2Q売上高 2,888百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

### 市場規模（推定）

- 約2,700百万m<sup>2</sup>/年

### 市場環境

- 国内ユーザーの海外移転一服で国内需要は底打ち

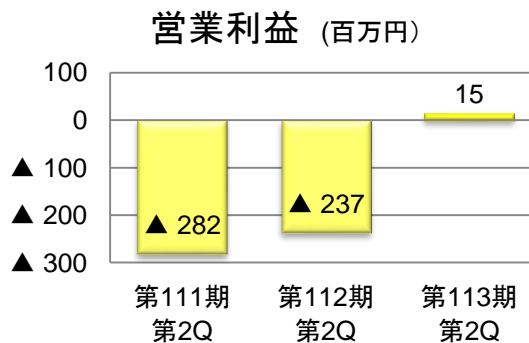
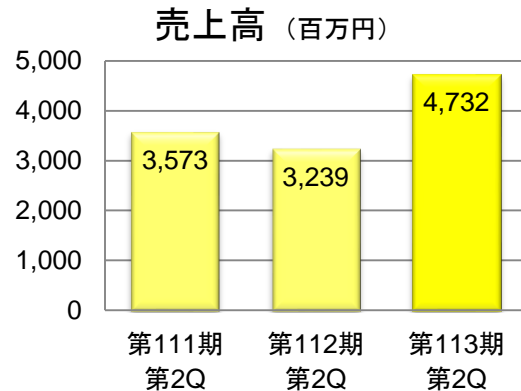
### 収益性・成長性

- 一般用途は競争厳しい
- 自動車関連部材用の拡販に期待
- FPC用工程紙は成長過程にあるも、IT業界の動向による受注変動大
- 炭素繊維プリプレグ用工程紙は実績の積上げが課題

# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

## 産業資材

- 売上高：4,732 百万円 ※売上高下段は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値  
(5,767 百万円 前年同期比 78.1% 増)
- 営業利益：15 百万円（前年同期実績 ▲237 百万円）



- 紙・布へのラミネート製品については、テープ用基材の一部がユーザーの生産調整の影響を受けるも、防災用品としての養生用テープの市場拡大と梱包用テープの需要回復により、受注回復。
- 剥離紙については、新型コロナウイルスの影響でPOPラベル関連は不調。自動車関連部材向けは、半導体不足により夏以降減少に転じるも、上期の影響は限定的。FPC(フレキシブルプリント基板)用工程紙は新規採用が増え、復調。
- 上記要因に加え、昨年10月に連結子会社化したシノムラ化学工業の業績寄与により大幅増収、黒字回復。

# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

## 機能性材料セグメント

### 機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



#### 主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

#### 生産拠点

##### 掛川工場



##### 袋井工場



##### 奈良工場



##### 長鼎電子材料 (蘇州)有限公司





# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

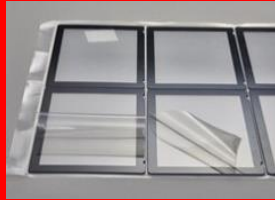
## オレフィン系粘着加工品

第2Q売上高 1,616百万円

サニテクト  
(粘着塗工タイプ)



PAC  
(2層押し出しタイプ)



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模（推定）

収益性・成長性

粘着塗工タイプ

粘着塗工タイプ

- 約300百万m<sup>2</sup>/年  
(光学用途)

- 品種により他社製2層タイプとも競合
- 一般用途では、ユーザーの海外移転が進み、国内市場は縮小傾向

2層押し出しタイプ

2層押し出しタイプ

- 約900百万m<sup>2</sup>/年  
(光学用途)

- 偏光板用は一定の需要が見込めるも、品質要求は高度化
- 強粘着タイプの拡販が課題

## その他の粘着加工品

第2Q売上高 2,512百万円

SAT、  
サニテクトNS  
その他  
(PET基材タイプ他)



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模（推定）

収益性・成長性

精密塗工タイプ

- 液晶テレビの4K・8K対応に向け、品質レベル向上が課題

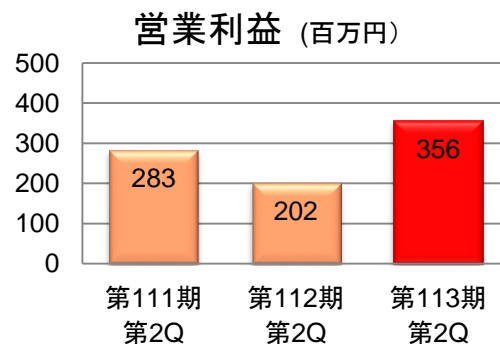
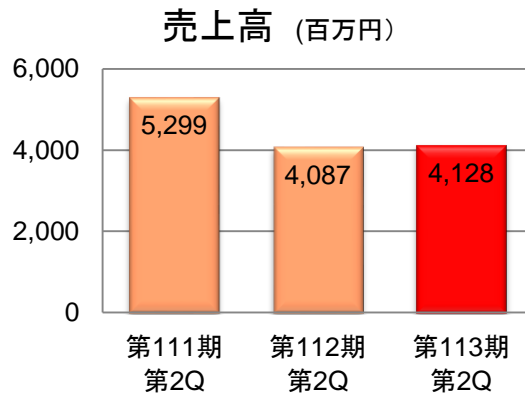
- 約500百万m<sup>2</sup>/年  
(光学用途)

- スマートフォン関連は受注量の変動大
- テレワーク需要でパソコン・タブレット向けは需要堅調

# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

## 機能性材料

- 売上高：4,128 百万円 ※売上高下段は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値  
(4,136 百万円 前年同期比 1.2% 増)
- 営業利益：356 百万円 (前年同期比 76.6% 増)



- オレフィン系粘着加工品については、前年同期に生産停止の影響を受けた自動車関連部材向けに「サニテクト」が回復。「PAC」についても、光学用途が回復する中、特にスマートフォン関連案件が伸長し、増収。
- その他の粘着加工品については、PET基材の「サニテクト」NSタイプの拡販が進展するも、中国のスマートフォン向け部材市場の競争激化と半導体不足の影響により、「SAT」の受注が減少し、減収。
- 減収となった「SAT」の多くが競争激化で低収益化。代わりに増収となったオレフィン系が採算面で貢献し、増益。

# 目次

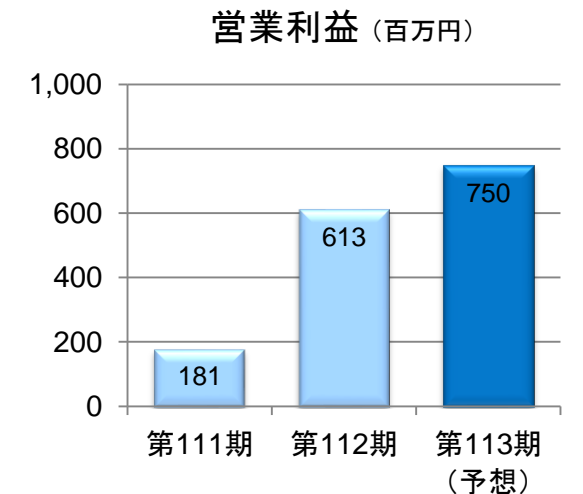
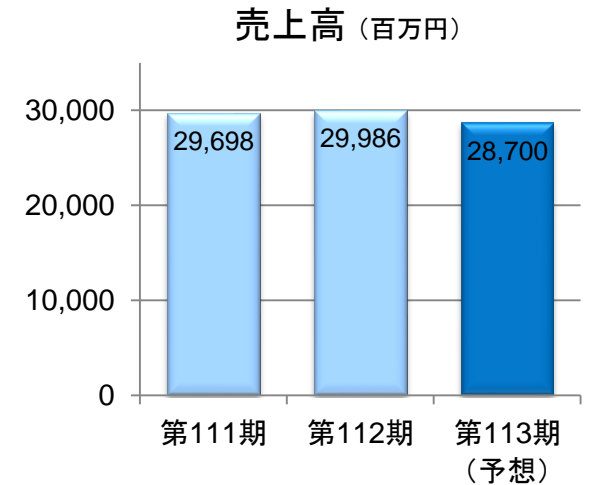
## 3. 第113期(2022年3月期)業績予想と今後の施策

- 通期業績予想
- セグメント別の業績予想  
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策  
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

# 第113期業績予想と今後の施策：通期業績予想

(単位：百万円)

科目／ セグメント	2020年3月期 (第111期)	2021年3月期 (第112期)	2022年3月期 (第113期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	29,698	29,986	28,700 (31,900)	(1,913)	(6.4%)
軽包装材料	11,760	12,000	11,200 (12,400)	(399)	(3.3%)
産業資材	7,300	8,967	9,300 (11,300)	(2,332)	(26.0%)
機能性材料	10,040	8,581	7,900	▲681	▲7.9%
その他	596	437	300	▲137	▲31.4%
営業利益	181	613	750	136	22.3%
経常利益	▲161	906	870	▲36	▲4.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	▲1,338	1,101	610	▲491	▲44.6%



※括弧内は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値

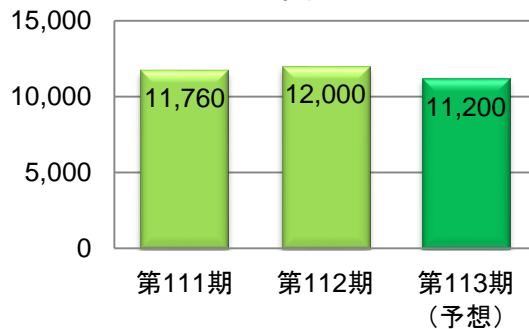
# 第113期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（軽包装材料）

## 軽包装材料

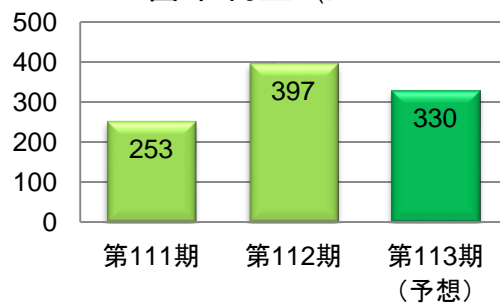
【第113期業績予想】※売上高下段は「収益認識に関する会計基準」適用前の予想値

- 売上高： 11,200 百万円  
(12,400 百万円 前期比 3.3% 増)
- 営業利益： 330 百万円 (前期比 16.9% 減)

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



- 食品用包材では、コロナ禍収束後も「レンジD。！」の受注増、清涼飲料用パウチの回復を見込むが、その他の食品包材は競争激化が予想される。
- 医薬品・医療用包材は下期も安定して回復傾向。日用品等の包材では、詰替え用パウチの伸び率低下が見込まれるも、その他一般包材は回復の見通し。
- 「収益認識に関する会計基準」適用前では増収を見込む。
- 原油価格急騰により樹脂等の原材料コストは増加の見込み。合理化と価格転嫁を進めるも、減益の見通し。

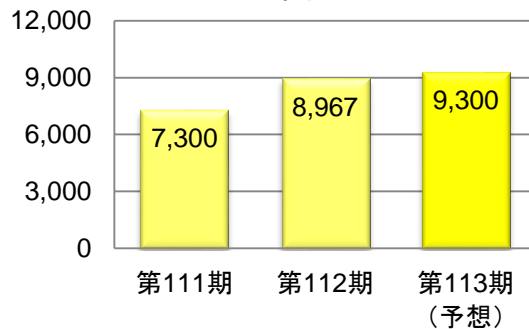
# 第113期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（産業資材）

## 産業資材

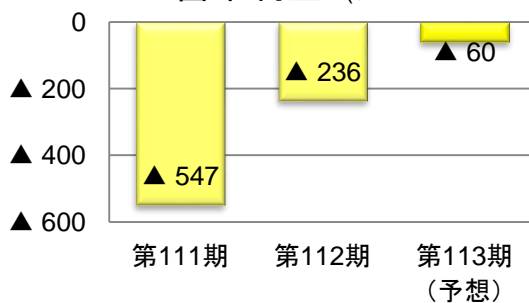
【第113期業績予想】※売上高下段は「収益認識に関する会計基準」適用前の予想値

- 売上高： 9,300 百万円  
(11,300 百万円 前期比 26.0% 増)
- 営業利益： ▲60 百万円 (前期実績 ▲236 百万円)

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



- テープ用基材については、下期には需要回復が見込まれ、シノムラ分を除いても“旧基準”で増収の見込み。
- 剥離紙については、自動車関連部材向けが不透明であるが、FPC用工程紙やその他の用途でシノムラ分を除いても“旧基準”で回復を見込む。
- 昨年10月に子会社化したシノムラ化学工業の業績が通期にわたって寄与。「収益認識に関する会計基準」適用後でも増収の見込み。
- 第2四半期累計で黒字化するも、原油価格急騰による原材料コストの増加で、通期は営業損失継続の見通し。

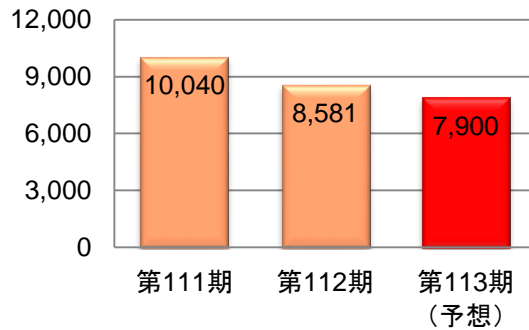
## 第113期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（機能性材料）

### 機能性材料

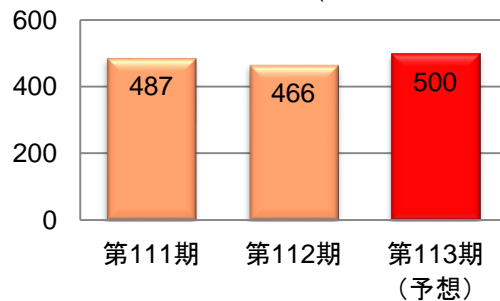
#### 【第113期業績予想】

- 売上高： 7,900 百万円（前期比 7.9% 減）
- 営業利益： 500 百万円（前期比 7.1% 増）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

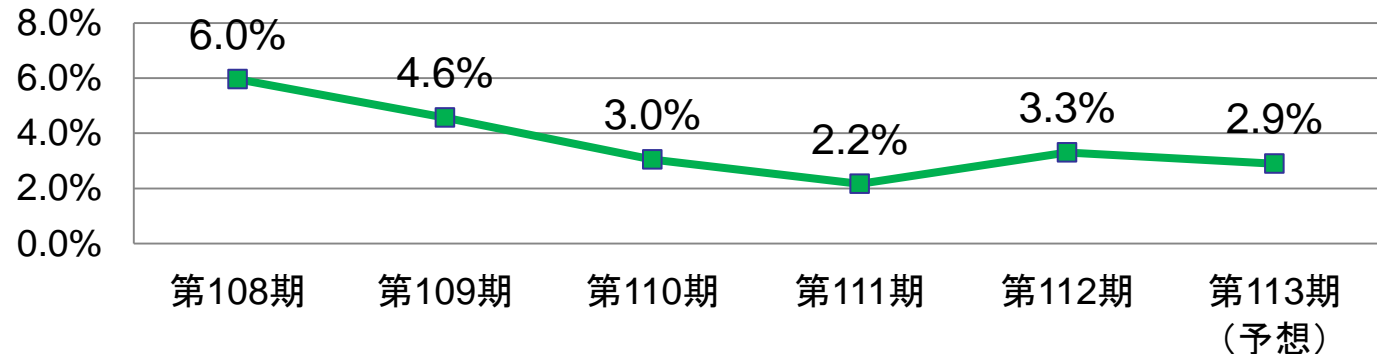


- 「オレフィン系粘着加工品」では、「サニテクト」、「PAC」とも光学用途の回復基調が持続し、増収の見込み。
- 「その他の粘着加工品」では、中国関連会社：長鼎電子材料の出資持分の売却決定により、売上の一部は国内工場へ移管するも、偏光板用「SAT」が減収の見込み。
- 中国市場の競争激化により、スマートフォン関連部材向け「SAT」も苦戦。機能性材料全体で減収の見込み。
- 原材料コスト増加が見込まれるも、オレフィン系の回復と円安による長鼎移管品の採算改善で増益の見通し。

# 第113期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（軽包装材料）

## 軽包装材料

### 営業利益率の推移

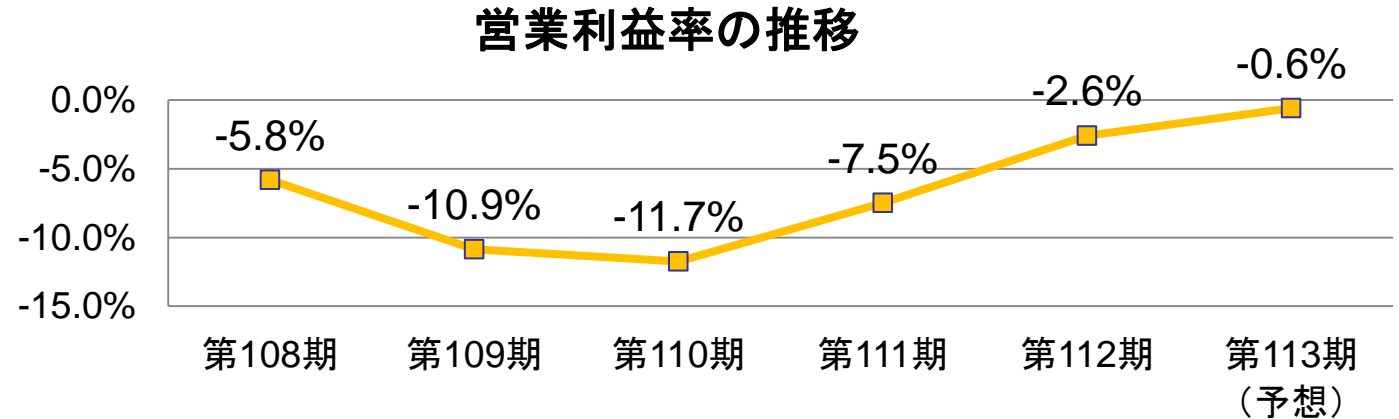


- 市場ニーズと環境の変化に対応し、安定した収益を上げうる体質づくりを進める
- 「レンジD<sub>o</sub>！」については、内容物、使用方法に応じた商品ラインアップ拡充と食品メーカーとの協業により、新たなニーズの掘り起こしと新規顧客の開拓を図る。
- 耐内容物包材やエア緩衝材については、新たな用途開発を推進するとともに、既存製品の改良・改善を進め、売上回復に努める。
- 今後ますます活発化する環境保護への取組みに対応し、環境負荷の低い原材料への切替えやリサイクルし易いモノマテリアル（単一素材）化を推進する。



# 第113期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（産業資材）

## 産業資材

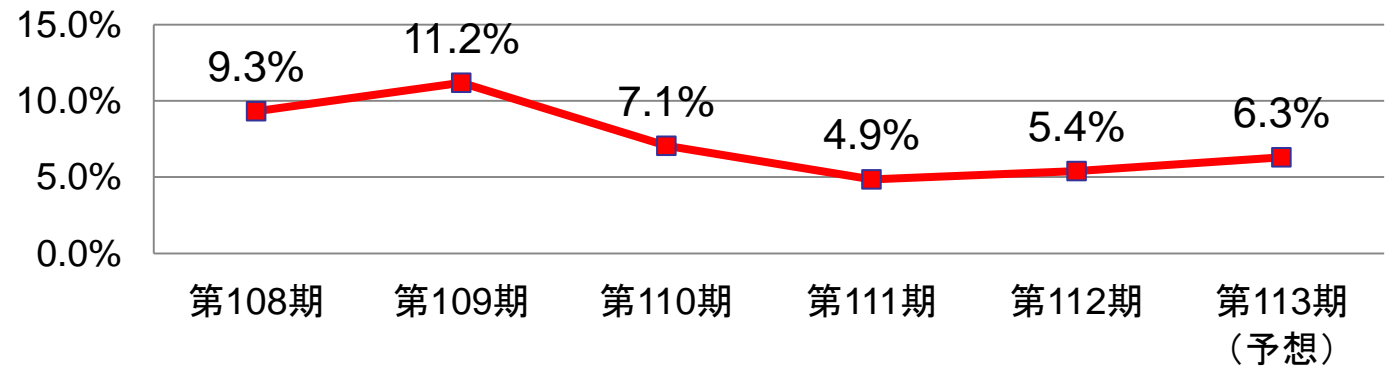


- 高収益分野への展開と生産体制の再構築によって、収益構造の転換を図る
- シノムラ化学工業子会社化によるPMIを本格的に推進し、生産・物流体制の最適化と仕入・販売面を含むシナジー創出により、収益改善を図る。
- 掛川工場WESTの特長であるクリーンな生産環境を活かした製品比率を高め、同工場の収益力を強化して、当セグメントの主力工場への早期転換を図る。
- 収益性の高いIT関連分野やメディカル分野への製品展開を推進するとともに、炭素繊維関連製品や環境対応製品の開発にも注力する。

# 第113期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（機能性材料）

## 機能性材料

### 営業利益率の推移



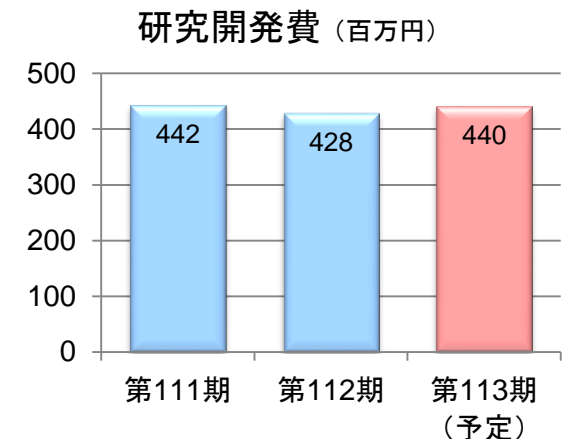
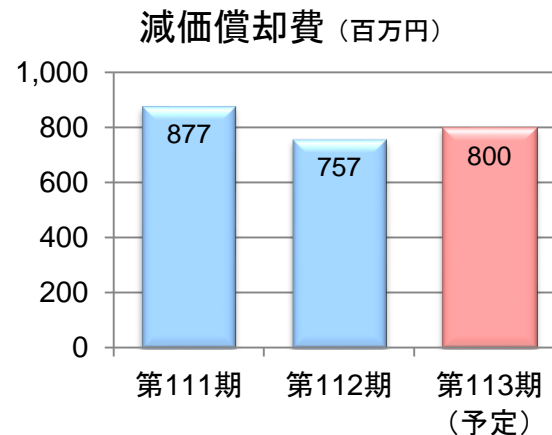
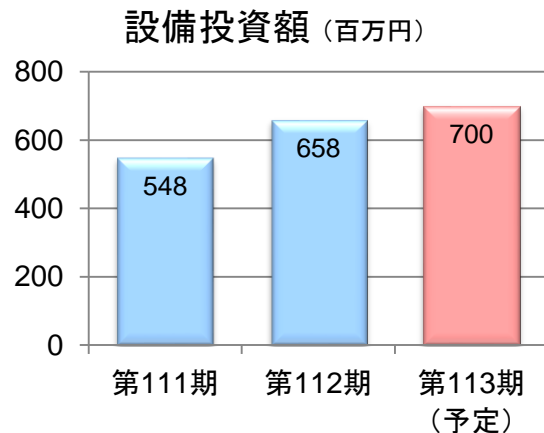
- 技術・品質・顧客対応の強化によって、安定的に高収益を維持する
- 顧客密着型の開発態勢を継続。将来の受注機会の確保とともに、顧客要求の変化から市場のトレンドを見極め、未開拓分野やニッチ市場で競合他社に先行する。
- 長鼎電子材料の出資持分売却による減収額の圧縮と中国事業の継続を図るため、可能な限り掛川工場への生産移管を進めるとともに、コストダウンを徹底する。
- 抗菌・抗ウイルス性を付加した新製品「バイプロ<sup>□</sup>テープ」の拡販に注力。派生製品の開発・製品化についても推進し、新たな分野で収益確保を図る。

# 第113期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

(単位：百万円)

科 目	2020年3月期 (第111期)	2021年3月期 (第112期)	2022年3月期 (第113期) (予定)	備 考
設備投資額	548	658	700	加工機・試験機の増設・更新・改良、工場建屋の改修
減価償却費	877	757	800	主に子会社の設備投資拡大により増加
研究開発費	442	428	440	第111期と同等水準の支出を予定

※設備投資額は無形固定資産を含まず



# 目 次

---

## 4. 参考情報

- 新製品紹介
- 新施設紹介
- 適時開示情報
- 基本情報

## 参考情報: 新製品紹介

### ■ 防災用品「台風対策テープ」を商品化

前期発売した抗菌・抗ウイルステープ「バイプロ<sup>®</sup>テープ」に続き、B to C 製品の第2弾として「台風対策テープ」を新たに商品化しました。

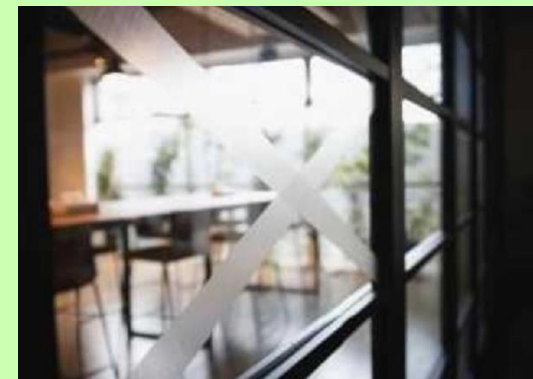
#### 特長

- 目立たない透明タイプ
- のり残りの少ない粘着剤
- 剥離紙がなく貼り易い

台風や突風による飛来物で窓ガラスが破損した場合に備え、あらかじめ窓に貼っておくことでガラスの飛散を防止します。

当社「台風対策テープ」

一般的な養生用テープ(半透明)



## 参考情報: 新施設紹介

### ■ R&Dセンター内に微生物試験室を新設



コロナ禍で一躍ニーズが高まってきた抗菌・抗ウイルス製品を迅速かつ積極的に開発するため、本年3月、R&Dセンター内に抗菌性試験を行うことができる微生物試験室を新設しました。

当微生物試験室は、バイオセーフティレベル2（黄色ブドウ球菌や大腸菌等の細菌だけでなく、インフルエンザウイルス等一部ウイルスも取り扱うことのできるレベル）の能力を有しています。

今後は、抗菌性試験に限らず、菌や微生物を使った様々な試験に取り組み、社会のニーズに合致した製品の開発を目指します。





## 参考情報: 適時開示情報

### ■ 東証新市場区分「スタンダード市場」を選択申請

当社は、東証からの「新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果について」により、「スタンダード市場」の上場維持基準への適合を確認しました。

この結果を受け、10月28日の取締役会で「スタンダード市場」を選択することを決議し、11月24日、東証に申請しました。

### ■ 中国の持分法適用関連会社の出資持分売却を決定

2013年に中国蘇州市に設立した長鼎電子材料(蘇州)有限公司は、光学用表面保護フィルムの海外製造拠点として重要な役割を果たしてきましたが、中国市場の価格競争の激化と品質要求の高度化で受注が伸び悩み、業績回復に至らなかったため、11月15日の取締役会で中国企業への売却を決議しました。

売却後は、同社と技術提携契約を締結し、技術支援をするとともに、中国事業の継続を図っていく予定です。



# 参考情報: 基本情報

2021年9月30日現在

商 号  
 証 券 コ ー ド  
 設 立 者  
 代 表 所  
 事 業 所

株式会社 サンエー化研  
 4234 (JASDAQ スタンダード)  
 1942年9月 (昭和17年9月)  
 代表取締役社長 山本 明広  
 本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4  
 営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋  
                   【海外】台湾、中国上海 (灿櫻(上海)商貿有限公司)  
 生 産 拠 点 : 静岡、袋井 (2カ所 内1カ所はシノムラ化学工業(株))、  
                   掛川 (2カ所)、天理、野木 (東邦樹脂工業(株))  
                   【海外】中国蘇州 (持分法適用会社 長鼎電子材料)  
 研究開発拠点 : 掛川  
 資 本 金  
 21億76百万円  
 事 業 内 容  
 高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売  
 連 結 従 業 員 数  
 730名  
 決 算 期  
 3月31日



業績予想は、本資料の発表日現在(12月2日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問い合わせ先

---

株式会社 サンエー化研  
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719

E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp